

2018年度はSGH研究開発の第5年次として、各種プログラムを体系的に位置づけるとともに、指定期間終了後を見据え、継続的に行える活動を精選することを推進した。

1 生徒の活動

2018年5月	フィールドワーク実習（2年生）つくば 「起業教育プログラム」の一環
5月	土浦一高×笠間高校コラボPVプロジェクト打合せ（3年生） 笠間高校 アドバンス授業の一環
6月	ラーメン販売実施（3年生）課題探究学習の一環
6月	グローバルキャリアセミナー（2・3年生）
6月	土浦一高×笠間高校コラボPVプロジェクト撮影（3年生） 本校 アドバンス授業の一環
7月	外務省高校講座（2年生26名）本校 アドバンス授業の一環
7月	土浦一高×笠間高校コラボPVプロジェクト編集（3年生） 笠間高校 アドバンス授業の一環
7月	起業家セミナー（1年生） 本校 グローバルキャリアデザインの一環
7月	MJIT 学生来校 海外フィールドワークの事前研修
8月	海外フィールドワーク マレーシア・シンガポールコース（2年生9名）マレーシア工科大学等
8月	海外フィールドワーク オーストラリアコース（2年生13名）タスマニア大学等
8月	海外フィールドワーク アメリカ西海岸コース（2年生8名）カリフォルニア大学等
9月	日本政策金融公庫ビジネスプラン研究会（2年生） 本校 アドバンス授業の一環
10月	ドイツオットー・ハーン学生来校 真鍋小学校、土浦二高とコラボプログラム
10月	筑波銀行ビジネス交流会（2年生） つくば国際会議場
11月	グローバルキャリア講演会（全学年） 本校
11月	グローバル企業研究所訪問（1年生） 東京、つくば市等
12月	SGH全国高校生フォーラム 東京国際フォーラム
12月	インターナショナルデー（留学生ワークショップ）（1年生） 本校 グローバルキャリアデザインの一環
12月	グローバルキャリアアドバンス最終プレゼン（3年生） 本校
12月	キャリアガイダンス（OB・OGガイダンス）（2年生）
12月	キャリアセミナー（進路講演会）（3年生） 本校
12月	第3回関東甲信越静地区SGH課題研究発表会 立教大学
12月	3年生課題探究活動 最終発表（3年生） 本校全校集会 アドバンス授業の一環
2019年1月	キャリアセミナー（進路講演会）（1年生） 本校
1月	第5回グローバルビジネスアイデアコンテスト発表（1・2年生） つくば国際会議場
2月	キャリアガイダンス（OB・OGガイダンス）（1年生） 本校
2月	キャリアセミナー（進路講演会）（2年生） 本校
3月	関西学院大学SGH甲子園発表（2年生） 神戸市
3月	筑波大学模擬国連ワークショップ（1・2年生） 筑波大学
通年	<ul style="list-style-type: none"> ・課題探究活動の取り組み 「グローバルキャリアデザイン」「グローバルキャリアアドバンス」で課題研究として実施 本校 ・外国人講師による講義：「国際」授業で随時実施、及び海外フィールドワークで実施

2 他校への視察・発表会参加 …SGH 研究開発の参考等を目的とした他校視察

2018年10月	新潟県立新潟高等学校 授業視察
10月	金沢県立金沢泉丘高等学校 授業視察
10月	金沢大学附属高等学校 授業視察
11月	広島県立広島高等学校 授業視察
11月	広島市立基町高等学校 授業視察
11月	修道高等学校 授業視察
2019年2月	福岡県立福岡高等学校 授業視察
2月	福岡県立東筑高等学校 授業視察
2月	神戸大学附属中等教育学校 SGH 発表会視察

3 SGH 視察受け入れ …SGH 視察等を目的とした視察の受け入れ

2018年6月	岡山県立岡山朝日高等学校	11月	東京都立立川高等学校
9月	鹿児島県立加治木高等学校	11月	埼玉県立浦和高等学校
10月	富山県立高岡高等学校	11月	栃木県立足利高等学校
11月	長野県立松本深志高等学校	2019年2月	三重県立四日市高等学校
11月	北海道立函館中部高等学校	2月	栃木県立宇都宮高等学校

4 対外会議 …運営指導委員会等

2018年6月	SGH 連絡協議会・連絡会 筑波大学文京校舎
9月	平成30年度第1回 SGH 運営指導委員会
2019年1月	平成30年度第2回 SGH 運営指導委員会

5 連携会議 …筑波大学，筑波銀行など連携先機関との会議・打合せ

2018年5月	笠間高校 土浦一高×笠間高校コラボPVプロジェクト打ち合わせ
9月	真鍋小学校 土浦一高×真鍋小グローバルセミナー打ち合わせ

6 普及活動 …記者説明やHP等

2018年5月	同窓会総会におけるSGH 概要紹介
5月・6月	中学生対象授業公開におけるSGH 概要紹介
6月	学校文化祭におけるSGH 概要紹介
6月	一般向けおよび小中学生向けパンフレット作成・配布
8月	小中学生対象学校説明会におけるSGH 概要紹介
2019年1月	GBIC グローカルビジネスアイデアコンテスト（土浦一高課題研究発表会）一般公開
随時	<ul style="list-style-type: none"> 本校HPにおけるSGHの情報発信 日本語・英語版 新聞記者や県広報課等による本校行事の取材対応 SGH 関連の新聞記事

土浦一高生 ラーメン販売

起業学が4人



地域企業と生産者からの応援を受けて完成した「一高ラーメン」を販売する土浦一高生ら＝土浦市大和町

一高ラーメンを提供したのは牧野創さん、石田啓さん、立花万聖子さん、古賀隆行さんのグループ。牧野さんらは「地元の食料その魅力を、ラーメンを通じて世界に広めたい」と、SGH授業での課題研究を「ラーメンプロジェクト」を立ち上げて取り組んだ。オリジナルのラーメン作りでは、SGH授業で講師役を務める筑波銀行勤務執行役員の渡辺一洋さんに相談。渡辺さんから、かすみがうら市でレストラン・かすみキッチンなどを運営する「かすみながら未来つく

企業提案の地元食材調理

「かすみながら未来つく」の牧野さんらは「ネットワーケや多くの方々との関係をつくること大切だ」と話している。生産者、企業の皆さんに感謝し、僕たちもチームのある人たちはバックアップできるような大人になりたい」と考えました」と話した。(久保浩)

興立土浦一高（土浦市真鍋、杉田雄雄校長）で起業学やビジネスについて学ぶ3年生4人が10日、土浦市大和町のアルカス土浦で、地元食材を使い開発した「一高ラーメン」を販売した。スーパーグローバルハイスクール（SGH）授業の一環で、地域資源を生かした企画立案、販路活動を行い、経済や流通、資金調達、マーケティングなどを学ぶのが目的。

「一高ラーメン」は、土浦市の老舗「柴沼醤油醸造」、つくば市でラーメン店を経営する「はりけん」の各企業を紹介された。各企業から「メン」や「明」豚肉などの地元食材を提案された生徒らは、スーパーキッチンなどに工夫を加えながら試食会を重ね、1杯600円の一高ラーメンを完成させた。

この日は同カンパニーから提供を受けたキッチンカーで生徒らが自ら調理し、限定140食を完売した。土浦市内の家族連れのお客は、いろいろな食材があるのが新しい発見で、「一つ一つがこだわっている感じがしてすごくおいしかった」と笑顔で話した。

牧野さんは「ネットワーケや多くの方々との関係をつくること大切だ」と話している。生産者、企業の皆さんに感謝し、僕たちもチームのある人たちはバックアップできるような大人になりたい」と考えました」と話した。(久保浩)

2018年6月14日 茨城新聞



兵藤昭彦社長から、咲き始めた薬の花の説明を受ける土浦一高生ら＝かすみがうら市上土田

土浦一高2年生 国際的に活躍できる人材育成を目指すスーパーグローバルハイスクール（SGH）指定校の興立土浦一高（土浦市真鍋、杉田雄雄校長）のSGH国際コースの2年生28人が21日、かすみがうら市上土田の四万騎農園（兵藤昭彦社長）を訪れ、「起業学教育」の一環としてビジネスの実例を学んだ。同校と連携協力協定を

栗農園、起業の実例学ぶ

結ぶ筑波銀行が協力した。100年以上続く同農園は、生栗・苗木の生産販売に加え、渋皮煮やジャム、ソフトクリームなどの加工品も手がける。どこにも面せず直接販売するなど、専門で生栗加工、販売するビジネスモデルを確立した。

生徒たちは、栗の選果場や加工場、栗畑を見学した後、兵藤社長から農園経営について話を聞いた。兵藤社長は、

肥料分が少ない土地柄で木が育ちにくく量がとれない同地区で経営を確立するため、量ではなく、適量の高品質な栗畑作りを目指している」と説明。その上で、「何をアラス要素として前に進むかが大事。マイナス要素も踏まえた上で、どうやってプラスに生かすかが起業につながる」と力を込めた。

生徒の宇野拓真さん（16）は「全国に向けて発信している力が素晴らしいと思った。農業に関連した仕事への関心も高まった」と話した。(久保浩)

2018年5月28日 茨城新聞



独自の起業プラン生徒ら英語で発表

つくばで土浦一高グローバル化した社会で活躍できる人材育成を目的に、スーパーグローバルハイスクール（SGH）校の指定を受ける興立土浦一高（土浦市真鍋、杉田雄雄校長）は26日、つくば市竹園のつくば国際発表会「グローバルビジネスアイデアコンテスト」を開いた。筑波銀行後援。

同高は生物資源を生かしたビジネス起業をテーマに、課題研究の授業や起業家セミナー、海外フィールドワークなどの取り組みを実施している。

2年生では1個人とグループが、独自のビジネスプランを全て英語で発表。グランプリには奥西結

さん、大畑理香さん、山本梨空さんの3人の発表作品「オズハルベストマーケットの商業化」が選ばれた。作品は、「野菜の見た目が悪いから、包装ミスを防ぐために、食べるところだけトッピングする」というアイデアを提案した。

受賞を喜ぶ3人は「SGHの活動で学んだ主体性、協調性、社会性は今後私たちの将来に生きてくる想っています」と笑顔でコメントを述べた。

2019年1月30日 茨城新聞

